

ボツワナ共和国月報(2019年11月)

主な出来事

【内政】

- 大統領就任式の開催
- 閣僚の発表
- 所信表明演説の発表
- 首長会議議長の選出
- 総選挙に係る不正申立て

【外政】

- ファキAUC委員長のボツワナ来訪
- ボツワナ NGO のユネスコ/日本 ESD 賞の受賞

【経済】

- ルカラ・ダイヤモンド社, カロウエ鉱山の鉱山寿命を2040年に延長
- LVMHモエ・ヘネシー・レイ・ヴィトン社, ボツワナ・ダイヤモンドの主要購入企業を買収
- ボツワナ航空, エチオピア航空とコードシェア提携を締結

【文化】

- 秋田大学とボツワナ大学の協力を祝うレセプションの開催
- 第6回都築・ボツワナ交流児童画展の開催
- 日本文化祭の開催
- 日本映画祭の開催

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ 大統領就任式の開催

1日, マシシ大統領の就任式がボツワナ大学体育館で開催された。就任式には, 国外からはニューシ・モザンビーク大統領, ルング・ザンビア大統領, ムナンガグワ・ジンバブエ大統領等のSADC諸国首脳級の他, ルワンダ, ケニア, 中国及びカタールから賓客が参加した。マシシ大統領は同式典で宣誓を行い, 就任演説を行った。(4日: デイリー・ニュース紙他)

○ 特別選出国會議員の選出

4日, 新たに選出された国会議員が国会に召集され, 特別選出国會議員6名を選出した。大統領が提出した候補者に対する是非を問う秘密投票が国会議員(57名)及び大統領の計58名によって行われ, 各候補者がそれぞれ36票以上の賛成票を獲得し, ダウ前外務国際協力大臣をはじめとする4名の女性を含む6名の特別選出国會議員が決定した。(5日: デイリー・ニュース紙他)

○ 国民議会議長及び副議長、並びに副大統領の承認

5日、ボツワナ国民議会が招集され、国民議会議長及び同副議長の選出並びに副大統領の承認手続きが、秘密投票をもって実施された。投票の結果、副大統領はツォフワネ前副大統領、国民議会議長はスケレマニ元外務国際協力大臣、国民議会副議長はプレMochudi East選挙区選出国會議員となった。なお、モアトディ議員も副議長候補に擁立されたが、その後同擁立を取り消し、プレ議員一人に対する信任投票となった。(6日:デイリー・ニュース紙他)

○ 閣僚の発表

6日、マシシ政権における内閣が発表され、ダウ外務国際協力大臣、ムズニラ国土・水・衛生サービス大臣等が留任したが、閣僚経験者6名以外の議員は全て初入閣となった。(7日:デイリー・ニュース紙)

○ スケレマニ国会議長の選出理由

8月に国会が閉幕した際、一同はモラトウヘヒ副議長(当時)がコルウェ国会議長(当時)の退任により空いたポストに収まるということで同意していた。同副議長がBDPの予備選には出馬せず、代わりに国会議長の職を引き継ぐというシナリオができていた。しかし、選挙後マシシ大統領はスケレマニ氏の名前を党に対して提案した。行政の長であるマシシ大統領がモシュバ出身であるように、司法の長であるテレンス・ラノワネ最高裁判長もタマハ出身であり、両都市は14キロメートルしか離れていない。さらには、マシシ大統領は(特別選出国會議員選出の際)身内主義やえこひいきとして既に批判を浴びていた。したがって、立法の長は、そういった批判を消し去るために、北部から選ばれなければならなかった。また、副大統領に北部出身者のツォフワネ氏を選んだことで、マシシ大統領の側近が中央地区マハラペ出身のモラトウヘヒ前副議長ではなく、北部の他の民族も含まれていると感ぜられるようスケレマニ氏を選ぶようにアドバイスしたと考えられている。(9日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ 中央交通制御プロジェクトの開始

運輸通信省は、道路での安全性を確保し、交通渋滞を改善・管理するためのハボロネ中央交通制御プロジェクトの工事を開始した。同省からの報道発表によると、同プロジェクトでは既存の信号の交換、新たな中央交通制御システムの設置が実施され、2019年12月までに事業が完了する見込みである。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ 職務停止中のモルピシ大統領府首席次官公判の延期

12日、マタカ南地域裁判所判事は、職務停止中のモルピシ大統領府首席次官及び同首席次官の妻が職務の濫用、収賄、マネーロンダリングの罪に問われている事件に関し、検察側の申請に合意し、検察に対して捜査の時間をさらに与えることに合意した。同合意により、公判は来年2月17日に延期されることとなった。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ 閣僚人事

18日、ボツワナ政府は、プレスリリースを通じ、マシシ大統領がロナルド・マチャナ・シャムクニ (Hon. Ronald Machana Shamukuni) 議員を高等教育・研究・科学技術副大臣に任命したことを発表した。(18日:政府発表プレスリリース)

○ 所信表明演説の発表

18日、マシシ大統領は、総選挙後初の国会の開会に際し、所信表明演説を行った。所信表明演説は101ページにおよび約3時間かけて大統領によって読み上げられ、同演説には経済のポジティブな見通しなどが含まれている。(19日:デイリー・ニュース紙他)

○ 大統領府首席副次官代理の任命

マホシ大統領府首席次官代理は、ラパカ前環境・天然資源保護・観光次官を大統領府首席副次官代理に任命することを発表した。(19日:デイリー・ニュース紙他)

○ 首長会議議長の選出

19日、第4回首長会議 (Ntlo Ya Dikgosi, the House of Chiefs) 議員による宣誓式が行われ、その後、同議長及び副議長の選出が行われた。議長には、ハボロネ・バトロクワ族首長が再度選ばれ、副議長にはツイペ・マハラペ地区選出議員が選ばれた。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ ロバツェ・バスランクモールの建設開始

21日、1億ブラ規模のロバツェ・バスランクモール建設工事の起工式が開催され、マツェカ財務・経済開発大臣らが同式典に出席した。同事業はロバツェ町役場とタイム・プロジェクト社の官民連携事業である。同大臣によると、ショッピングセンターの建設事業により、工事段階で1000人、工事後には600人の雇用が創出される見込みである。タイム・プロジェクト社のマーリン社長によると、工事は来年3月から2021年4月まで行われる。(25日:デイリー・ニュース紙)

○ 総選挙に係る不正申立て

野党連合民主改革のためのアンブレラ(UDC)は13の国民議会選挙区及び3つの地方議会選挙区で不正があったとする申し立てを行った。ハボロネ・ポニントン・ノース選挙区でアナ・モケティ氏に敗れるボコUDC党首も申立人の一人である。ボコ党首は弁護士を通じ、裁判所に対し、モケティ氏は正当に選ばれたわけではなく、誰もポニントン・ノース選挙区では正当に選ばれていないので空席であると宣言するよう要求した。ボコ党首の宣誓供述書の中では、マシシ大統領、ダダ・ボツワナ民主党(BDP)財務局長、バロピBDP幹事長、セレマBDP戦略担当及びケンツェBDP報道官が、マホシ情報保安局(DIS)局長並びに独立選挙委員会職員とともに選挙の不正操作に関するキーパーソンであるとして言及されている。(29日:ガーディアン紙他)

【外交】

○ ボツワナ・南ア関係の悪化

ラマポーザ・南アフリカ大統領がボツワナのカウンターパートであるマシシ大統領の選挙での勝利に際し、祝意を述べるのが遅くなった時に、陰謀説が過熱し始めた。奇妙なことに、与党ボツワナ民主党(BDP)と兄弟のような政党であるアフリカ民族会議(ANC)が祝意を送ろうとしなかった。その後、ラマポーザ大統領がマシシ大統領の就任式を欠席し、ラグビーW杯決勝に進んだスプリングボックスを応援するために東京に飛んだことで、陰謀論が主要論になった。ボツワナが、南アフリカのビジネスマンであるブリジット・モツェペ・ラデベ氏のマシシ大統領を失脚させようとする運動に対しての押し戻しとして始めたことが、今では二つの南部アフリカの国の間の広範囲に渡る陰悪な冷戦になる恐れがある。両国の軋轢は、DCEC及びDISが調査している、ボツワナ中央銀行から1000億プラ(約1兆円)を強奪した疑いで、ラデベ氏とともに、マスワビ元DIS諜報部員、カーマ前大統領及びコシ前DIS局長の関与が噂されている事件の中で起きている。争いが膨らむにつれ、どちらの側も引き下がる気配を見せてない。(24日:サンデー・スタンダード紙)

○ ファキAUC委員長のボツワナ来訪

23日、マシシ大統領の再選に祝辞を述べるためにボツワナに来訪したファキ・アフリカ連合委員会(AUC)委員長はマシシ大統領と会談を行った。マシシ大統領は、会談の中でボツワナが予定通りの拠出金の支払い等を通じてAUCに貢献する準備ができている旨発言した。ファキ委員長はマシシ大統領がアフリカへの発展へのコミットメントを表明したことに対し感謝を述べた。(25日:デイリー・ニュース紙)

○ EUによる口蹄疫撲滅のための資金供与

EUは経済連携協定(EPA)の下で口蹄疫を撲滅するための資金として、ボツワナに対して、600万ユーロ(約7200万プラ)を供与することを決定した。EU発のコミュニケによると、同資金は、ボツワナ動物情報追跡可能システム(BAITS)の実施改善を通じて口蹄疫のない地域の統合を強固にするために使用される。また、牛肉のバリューチェーン、現在ンガミランドで試験的に実施されているコモディティ・ベースド・トレードの開始を支援するのに使用される予定である。(27日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ ボツワナNGOのユネスコ/日本ESD賞の受賞

高等教育・研究・科学技術省は、ボツワナのNGOであるCamphill Community Trustがユネスコ/日本・持続的な開発のための教育(ESD)賞を受賞したことを発表した。同NGOは、公教育において習熟できなかった知的・発達障害を持つ若者のために地域社会に根ざした「生活と仕事のための総合学習プログラム」を提供する学校を運営し、同プログラムが特別支援を要する学習者の個性、社会的発達、地域社会で必要な技能を伸ばすと共に、樹木・作物植え付け及び収穫技能を含む早期プログラムに参加することを支援した。同NGOは賞金として5万ドル(約52万プラ)を受け

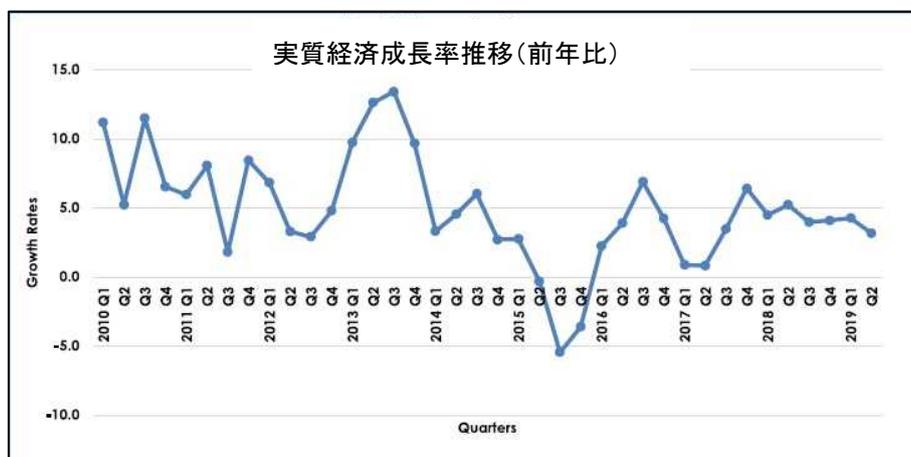
取った。ユネスコ／日本 ESD 賞は世界中の ESD の実践者にとってより良い取り組みに挑戦する動機付けと優れた取り組みを世界中に広めることを目的として2015年に日本政府の財政支援によりユネスコに創設されたものであり、推薦のあった世界各国の115団体から3団体が受賞団体として選ばれた。(28日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

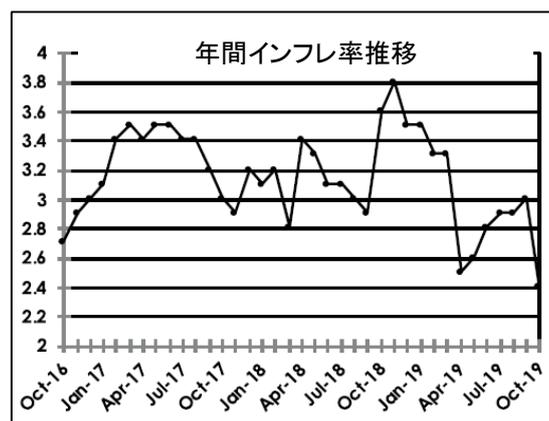
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2019年第2四半期の GDP は492億4170万プラとなり、第1四半期(488億5020万プラ)と比べて1.4%増となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2019年10月は2.4%(9月は3.0%)。



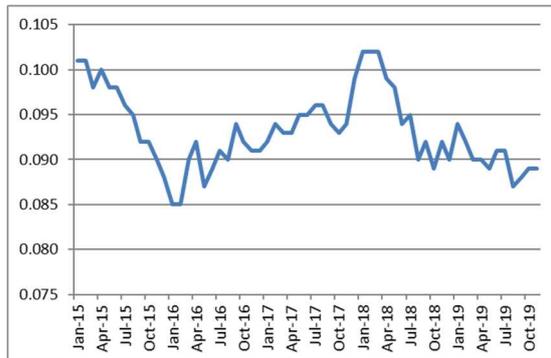
3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2019年11月28日

- 1 プラ=0.089米ドル
- 1 プラ=1.308南ア・ランド
- 1 プラ=9.87円

- 2019年10月31日
- 1 プラ=0.089米ドル
- 1 プラ=1.324南ア・ランド
- 1 プラ=9.75円

[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



○ ダイヤモンド産業

1) ボツワナ政府とデビアスグループの契約を交渉中

5日、ボツワナ政府とデビアスの提携の50周年を記念する第5回ダイヤモンド会議に出席したマシシ大統領は、ボツワナ政府とデビアスグループが現在の合意契約が期限切れとなる2020年から実施する次の売買契約に関する契約の交渉を行っている旨発言した。(6日:デイリー・ニューズ紙)

2) ルカラ・ダイヤモンド社、カロウェ鉱山の鉱山寿命を2040年に延長

ルカラ・ダイヤモンド社(カナダ)は、地下のフィージビリティスタディーの結果、カロウェ鉱山の地下拡張部分は鉱山寿命を二倍に延ばすものであり、2040年まで利益を得ることができる旨発表した。現在の露天掘りと共に地下鉱山オペレーションによって、2040年まで780万カラットのダイヤモンド生産が可能であり、約52億米ドルの総収入を生み出すことができる見通しである。(9日:ウイークエンド・ポスト紙)

3) デビアス社の第9期ダイヤモンド原石売上、前年比で29%減少

デビアス社の第9期ダイヤモンド原石販売会における売上は3億9000万米ドルとなり、前年同時期に比べ29%減少した。クリーバー・デビアス社 CEO によると、研磨済みダイヤモンドの世界市場は価格の安定性の増加と共に若干改善する兆候を見せている。(16日:ウイークエンド・ポスト紙)

4) LVMH モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン社、ボツワナ・ダイヤモンドの主要購入企業を買収

今週、LVMH モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン社(仏)は、ボツワナの研磨済みダイヤモンドの主要購入企業であるティファニー社を162億米ドルで買収することを発表した。ボツワナは、ティファニー社が宝石を購入し、研磨、加工しているアフリカで唯一の国である。LVMH モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン社は、ボツワナの観光産業にも関心を示しており、オカバンゴ・デルタの3つのロッジを買収している。(30日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ エネルギー・資源

1) Shumba Energy 社の石炭液化工場, 順調に前進

Shumba Energy 社は, フランシスタウン近くのマベセクワに200億プラ規模の石炭液化工場の建設を計画しており, 中国のエネルギー企業大手である Power China International Group と Wison Group と建設及び土木に関する提携を結んでいる。プマピ Shumba 社社長によると, 4週間前に上海と北京を訪問した際に同社に対して中国から巨額の資金提供に係る引き合いがあり, また, 同社は南アの政府関係機関などに燃料を供給している企業と取引に係る議論を行っている。(22日:メヒ紙)

○ ボツワナ・エネルギー規制庁と競争促進庁の覚書締結

13日, ボツワナ・エネルギー規制庁(BERA)と競争促進庁(CA)はエネルギー分野におけるサービスが競争性を確保しながら差別のない形で提供されることを確保し, 両機関の職務の遂行を補助することを目的とした覚書を締結した。(15日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ航空, エチオピア航空とコードシェア提携を締結

ボツワナ航空はエチオピア航空とコードシェア提携に係る合意を締結した。ボツワナ航空は同合意により, アクラ, アディスアベバ, ラゴス, エンテベ, ダルエスサラームなどのアフリカの都市, また, ロンドン, フランクフルト, パリ, ジュネーブなどのヨーロッパ, ドバイなどの中東, 香港などでサービスを拡大することとなる。(22日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ ボツワナ航空, 半数の職員を削減予定

ボツワナ航空は2020年3月までの間に現在の450名の職員の半数を削減する予定である。同削減は, 2016年に開始した効率的に運営し, 黒字化するためのプロセスの一環である。(22日:ボツワナ・ガーディアン紙)

【文化】

○ 秋田大学とボツワナ大学の協力を祝うレセプションの開催

4日, 日本大使館は秋田大学とボツワナ大学の協力関係を祝うレセプションを開催した。同レセプションの中で竹田大使は秋田大学とボツワナ大学が特に資源科学分野で高い学術的な業績と水準を高めるために教育研究の分野で協力するための合意に署名し, 両大学の関係が学術的な正式な合意によって深化し, 強化される旨発言した。(6日:デイリー・ニュース紙)

○ 第6回都築・ボツワナ交流児童画展の開催

第6回都築・ボツワナ交流児童画展が開催され, 4~8日にはベンテマ小学校, 9~10日にはヤングアフリカ・ボツワナ(若者への芸術・文化を通じた職業訓練等を行うNGO)において横浜市立

茅ヶ崎小学校の児童が日本の風景等を描いた絵画が展示された。竹田大使は開催を記念する式典において、ベンテマ小学校及び茅ヶ崎小学校の生徒の絵画がTICAD7のサブイベントで展示され、また、NHKWorldの番組内で同事業が取り上げられた旨発言した。ベンテマ小学校は、ペンテマ社から画材の寄贈を受けた。(10日:サンデー・スタンダード紙他)

○ 日本文化祭の開催

9日および10日、日本大使館はヤングアフリカ・ボツワナと共催で、日本文化祭を開催した。竹田大使は、スピーチの中で同イベントがボツワナ国民の全ての世代に日本文化を紹介することを目的とした最初の日本文化祭であり、お互いの文化を学ぶことでボツワナと日本の協力がより強固になる旨発言した。(12日:デイリー・ニュース紙)

○ 日本映画祭の開催

15～17日、リバウォークショッピングモールのキャピトルシネマにおいて第11回日本映画祭が開催された。15日に行われた開会式には、竹田大使、モラケ外務国際協力省アジア太平洋局長が出席した。モラケ局長は、文化交流により、両国の相互理解を促進し、双方の相違点と類似点を認識することができる旨発言した。竹田大使は、映画を楽しむことでボツワナと日本の友情がより強固になることを望むと述べた。(18日:デイリー・ニュース紙)